

科目名	中等教科教育法Ⅰ（社会・地理歴史）			担当教員	高田 準一郎
単位	2単位	講義区分	講義	ナンバリング	ED1JTM215
期待される学修成果	教科教育 自己形成				
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク				
実務経験	教諭（講師含む）				
実務経験を生かした授業内容	学校現場の経験を生かし、中等教育の授業方法や授業内容について講義する。				
到達目標及びテーマ	学習指導要領における中学校社会科（地理的分野）と高等学校地理歴史科の目標や学習内容を踏まえ、社会の見方や考え方に関わる知識や技能を学びます。学習指導案の作成や教材研究、模擬授業などを実施し、社会の見方や考え方に関わる学習内容を、広い視野から実践的に探究していきます。到達目標は、このような活動や探究を通して、教科教育における専門的な知識と実践的な指導力を身に付けることです。				
授業の概要	学習指導要領に関わる内容（要説）では分化社会科や社会科再編論などの論点を通して、その基本的な枠組みを検討していきます。また具体的な授業プランを通して、社会の見方や考え方に関わる学習内容について理解（授業研究論、教材研究論）を深めていきます。次いで教科書の学習内容を分析し、学習指導案の作成（授業設計論）に取り組みます。さらに世界の諸地域や日本の諸地域に関する学習内容（教材内容論）を題材にSDGsの観点を導入した学習指導案をグループごとに作成し、模擬授業を実施します。これらの事例研究を通して、学習指導案の作成や教材研究、授業づくりなどの専門的な知識や実践的な指導力を身に付けていきます。 【デジタル技術利用 該当番号：③】 【教育DX指定科目】 ①初等中等教育でのデジタル技術の応用や批判的検討を扱う科目（ただし、BYODは未使用）				

授業計画	
第1回	学習指導要領の要説（１）：社会科（地理的分野）の目標や学習内容、分化社会科論
第2回	授業研究論（１）：事例地域（アジア地域）
第3回	授業研究論（２）：事例地域（西欧地域）
第4回	学習指導要領の要説（２）：地理歴史科（地理総合・地理探究）の目標や学習内容、社会科再編論
第5回	教材研究論（１）：学習指導要領と教科書教材の成立条件
第6回	教材研究論（２）：持続可能な開発としての教育（ESD）と地理教育
第7回	教材内容論（１）：模擬授業（ロシア・東欧地域）
第8回	教材内容論（２）：模擬授業（アフリカ地域）
第9回	教材内容論（３）：模擬授業（新大陸地域）
第10回	教材研究論（３）：輪中地域における持続可能な土地利用の開発
第11回	授業設計論：問題設定と授業構造論、授業科学の有効性
第12回	教材内容論（４）：模擬授業（西日本の地域）
第13回	教材内容論（５）：模擬授業（中央日本の地域）
第14回	教材内容論（６）：模擬授業（東日本の地域）
第15回	学習指導要領の要説（３）：改訂の趣旨と要点、地理総合と地理探究の考察

事前学修	2時間	指示された課題をやっておく。また、担当部分の学習指導案の作成、模擬授業の準備をしておく。
事後学修	2時間	授業ごとに学び得たことを整理し、まとめておく。
フィードバックの方法	模擬授業に対して、必要に応じてコメントする。課題レポートや小テストを実施し、評価した観点に即してコメントする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
レポート	40%	補足事項を参照

上記以外の試験・平常点評価		60%	補足事項を参照
定期試験		0%	
補足事項	レポート：課題レポートは考察のまとめや学習指導案の作成（考察はわかりやすく整理されているか。学習指導案は問題意識が明確か。本時案は論理整合性をもって展開されているか。一次文献を踏まえるなど引用作法が適切か。） 上記以外の試験・平常点評価：授業の参加度（気づき・感想は学び得たことが整理されているか。模擬授業は完成度の高いものになっているか。小テスト有。）		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
中学校学習指導要領解説 社会編	文部科学省	東洋館出版社	978-4-491-03471-3	ネットでも入手可能
新しい社会地理	矢ヶ崎典隆ほか	東京書籍	978-4-487-12331-5	丸善にて注文、購入
参考資料	適宜、指示します。			

科目名	中等教科教育法Ⅱ（社会・地理歴史）			担当教員	高田 準一郎
単位	2単位	講義区分	講義	ナンバリング	ED2JTM216
期待される学修成果	教科教育 自己形成				
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク				
実務経験	教諭（講師含む）				
実務経験を生かした授業内容	学校現場の経験を生かし、中等教育の授業方法や授業内容について講義する。				
到達目標及びテーマ	学習指導要領における中学校社会科（歴史的分野）と高等学校地理歴史科の目標や学習内容を踏まえ、社会の見方や考え方に関わる知識や技能を学びます。学習指導案の作成や教材研究、模擬授業などを実施し、社会の見方や考え方に関わる学習内容を、広い視野から実践的に探究していきます。到達目標は、このような活動や探究を通して、教科教育における専門的な知識と実践的な指導力を身に付けることです。				
授業の概要	学習指導要領に関わる内容（要説）では系統的学習論や主題学習論などの論点を通して、その基本的な枠組みを検討していきます。また具体的な授業プランを通して、社会の見方や考え方に関わる学習内容について発展的に捉え、理解（授業研究論、教材研究論）を深めていきます。次いで教科書の学習内容を分析し、学習指導案の作成（授業設計論）に取り組みます。さらに歴史に関する学習内容（教材内容論）を題材にして、模擬授業を実施します。これらの事例研究を通して、学習指導案の作成や教材研究、授業づくりなどの専門的な知識や実践的な指導力を身に付けていきます。 【デジタル技術利用 該当番号：③】 【教育DX指定科目】 ①初等中等教育でのデジタル技術の応用や批判的検討を扱う科目（ただし、BYODは未使用）				

授業計画	
第1回	学習指導要領の要説（１）：社会科（歴史的分野）の目標や学習内容、系統的学習論
第2回	教材研究論（１）：教科書教材の構成と時代区分、歴史総合の考察
第3回	授業設計論：問題設定と授業追試論、授業科学の有効性
第4回	授業研究論（１）：事例研究（古代国家の成立と東アジア）
第5回	授業研究論（２）：事例研究（武家政権の成長と東アジア（１） 武士団による政治と内乱）
第6回	教材内容論（１）：模擬授業（武家政権の成長と東アジア（２） 全国統一と天下泰平）
第7回	教材内容論（２）：模擬授業（武家政権の展開と世界の動き（１） 倒幕運動と明治維新）
第8回	教材内容論（３）：模擬授業（武家政権の展開と世界の動き（２） 日清・日露戦争と政党政治）
第9回	教材内容論（４）：模擬授業（近代国家の歩みと国際社会（１） 財閥の形成と第一次世界大戦）
第10回	教材内容論（５）：模擬授業（近代国家の歩みと国際社会（２） 政党政治と郊外文化）
第11回	教材内容論（６）：模擬授業（近代国家の歩みと国際社会（３） ブロック経済と第二次世界大戦）
第12回	教材内容論（７）：模擬授業（現在に続く日本と世界）
第13回	学習指導要領の要説（２）：地理歴史科の目標や学習内容、主題学習論
第14回	教材研究論（２）：ワークシート教材の考察、教材としての適切性
第15回	学習指導要領の要説（３）：改訂の趣旨と要点、歴史探究の考察

事前学修	2時間	指示された課題をやっておく。また、担当部分の学習指導案の作成、模擬授業の準備をしておく。
事後学修	2時間	授業ごとに学び得たことを整理し、まとめておく。
フィードバックの方法	模擬授業に対して、必要に応じてコメントする。課題レポートや小テストを実施し、評価した観点に即してコメントする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
レポート	40%	補足事項を参照

上記以外の試験・平常点評価		60%	補足事項を参照
定期試験		0%	
補足事項	レポート:課題レポートは考察のまとめや学習指導案の作成（考察はわかりやすく整理されているか。学習指導案は問題意識が明確か。本時案は論理整合性をもって展開されているか。一次文献を踏まえるなど引用作法が適切か。） 上記以外の試験・平常点：授業の参加度（気づき・感想カードは学び得たことが整理されているか。模擬授業は完成度の高いものになっているか。小テストの実施有。）		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
中学校学習指導要領解説 社会編	文部科学省	東洋館出版社	978-4-491-03471-3	ネットでも入手可能
新編新しい歴史教科書	杉原誠四郎	自由社	歴史712	丸善にて注文、購入
参考資料	適宜、指示します。			

科目名	中等教科教育法Ⅲ（社会・公民）			担当教員		須本 良夫	
単位	2単位	講義区分	講義		ナンバリング	ED2JTM217	
期待される学修成果	教科教育 学校と社会						
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク						
実務経験	中学校教諭（講師含む）３年間						
実務経験を生かした授業内容	学習内容に対応した授業づくりの支援						
到達目標及びテーマ	中学校社会科公民的分野の現代社会・政治・経済・国際社会の諸課題の各領域の特色をとらえ、授業実践を参考に学習内容の構成や指導ができるようになる。【公民的分野の各領域の特徴を踏まえた学習指導】						
授業の概要	中学校社会科公民的分野の目標を理解し、公民的分野の各領域の基本的な内容をとらえる。地理歴史科と公民科の違いをとらえる。中学校社会科公民的分野の各領域ごとの特色をとらえ、先行実践や提案実践の分析を行う。中学校社会科公民的分野の授業を構想するための教材研究を行う。中学校社会科公民的分野の学習指指導案の設計ができるよう、附属中学校での授業をイメージし、提案を行う。 【デジタル技術利用 該当番号：①、③、④】 【教育D X 指定科目】 ① 初等中等教育でのデジタル技術の応用や批判的検討を扱う科目（ただし、BYODの使用可）						

授業計画	
第1回	オリエンテーション 中学校における社会科の評価問題と評価
第2回	中学校社会科公民的分野の教育目標と教育課程 学習指導要領の目指すもの
第3回	現代社会領域の内容と学習指導
第4回	現代社会領域の授業実践の分析と評価
第5回	政治領域の内容と学習指導
第6回	政治領域の授業実践の分析と評価
第7回	経済領域の内容と学習指導
第8回	経済領域の授業実践の分析と評価
第9回	国際社会の諸課題領域の内容と学習指導
第10回	国際社会の諸課題領域の授業実践の分析と評価
第11回	公民としての資質・能力の基礎を育成する指導案作り
第12回	公民としての資質・能力の基礎を育成する指導案の検討
第13回	授業提案 1 (5 グループ× 10分＋議論)
第14回	授業提案 2 (5 グループ× 10分＋議論)
第15回	授業提案を踏まえた公民的分野の授業づくりと講義のまとめ

事前学修	2時間	・該当する『中学校学習指導要領公民的分野』のページを読む。 ・該当する『中学校社会科教育・高等学校公民科教育』のページを読み、関連することを調べる。
事後学修	2時間	・配布プリント等から授業内容を振り返り、講義内容で気付いたことをまとめる。 ・課題に取り組み、学習指導案の構想・改善につなげる。
フィードバックの方法	レポートなどの紙媒体の課題等はコメントを入れて返却する。ユニバなどで提出した課題は確認してコメントする。メールアドレスから質問等は適宜受け付ける。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	
レポート	50%	講義内容をまとめ自分の考えが述べられている

上記以外の試験・平常点評価		50%		積極的に参加をすることができている。	
補足事項					
教科書					
書名		著者	出版社	ISBN	備考
特になし		なし	なし	なし	なし
参考資料		○『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編』 東洋館出版社 (2018/3/1) ISBN-13 : 978-4491034713			

科目名	中等教科教育法Ⅳ（社会・公民）			担当教員	須本 良夫	
単位	2単位	講義区分	講義		ナンバリング	ED3JTM218
期待される学修成果	教科教育 学校と社会					
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク					
実務経験	小学校教諭 岐大附属校長					
実務経験を生かした授業内容	目標に対応した授業デザイン					
到達目標及びテーマ	1. 公共の考え方を理解できることが出来る 2. 社会科教育における授業類型を理解することが出来る 3. 社会的事象を批判的に分析することが出来る 4. 多様な授業をデザインすることが出来る					
授業の概要	公民科の目標を理解し、公民科の基本的な内容をとらえる。地理歴史科と公民科の違いと共通事項を確認し、公民科の各科目ごとの特色をとらえ、先行実践や提案実践の分析を行う。公民科の授業を構想するための教材研究、授業マネジメントができるようになり、模擬授業でその達成度を吟味する。 【デジタル技術利用 該当番号：③、④】 【教育D X 指定科目】 ① 初等中等教育でのデジタル技術の応用や批判的検討を扱う科目（ただし、BYODの使用可）					

授業計画	
第1回	「公民」の意味と公民科教育の教育目標と教育課程
第2回	公共の考え方の概要 法や政治
第3回	公共の考え方の概要 経済や社会課題
第4回	社会科教育における類型論 1
第5回	社会科教育における類型論 2
第6回	公民領域における授業実践の分析と評価 1
第7回	公民領域における授業実践の分析と評価 2
第8回	公民領域における授業実践の分析と評価 3
第9回	授業デザイン 1
第10回	授業デザイン 2
第11回	模擬授業 1 （グループ数×15分＋議論）
第12回	模擬授業 2 （グループ数×15分＋議論）
第13回	模擬授業 3 （グループ数×15分＋議論）
第14回	模擬授業 4 （グループ数×15分＋議論）
第15回	模擬授業を踏まえた公民科の授業づくり

事前学修	2時間	・該当する『高等学校学習指導要領 公民編』のページを読む。
事後学修	2時間	・配布プリント等から授業内容を振り返り、講義内容で気付いたことをまとめる。 ・課題に取り組み、学習指導案の構想・改善につなげる。
フィードバックの方法	メールアドレスから質問等は適宜受け付ける。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
上記以外の試験・平常点評価	50%	授業における議論への参加、および課題への対応

レポート	50%	中等公民教育に関する問題についてA4・2枚程度で提出する
定期試験	0%	
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
高等学校学習指導要領解説公民編	文部科学省	東京書籍	4487286336	なし
参考資料	講義にて、適宜プリント等を配布する			